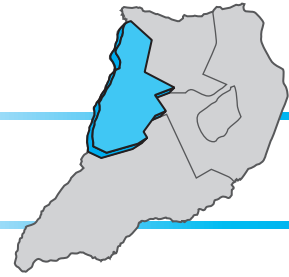


### 3 大曲地区



#### 3-1. 大曲地区の特性（現況と課題）

##### ■ 周囲の自然と調和した良好な住環境の形成

明治6年（1873年）に札幌本道（現在の国道36号）が開通し、国道36号と道道栗山北広島線の交差点付近に集落が形成されました。昭和40年代から民間の宅地開発などにより住宅地の整備が進み、人口が急増しており、古くからの住宅地と新しい住宅地が混在しています。市街地周辺の樹林地などの良好な自然環境を保全しながら、道路や公園などの都市基盤の充実を図るとともに、個性的な住環境の形成が必要となっています。

##### ■ 産業機能をもつ工業団地の充実

地区内を南北に道央自動車道、国道36号、羊ヶ丘通など広域幹線道路が通り、札幌市や新千歳空港などを結ぶ交通の要衝となっています。昭和39年に企業立地が始まった大曲工業団地は、恵まれた立地条件を活かし、現在、約120社の企業が立地操業しており、企業の誘致も順調に進んでいますが、分譲可能な工業地が限られている状況にあるため、新たな工業地の供給を図る必要があります。

##### ■ 大曲会館とコミュニティセンターなどを結ぶ交流の中心地の形成

国道36号の付近に大曲会館や市役所大曲出張所があり、地区の中心として機能していますが、道道栗山北広島線と市道大曲通線の交差点付近にコミュニティセンターの建設が計画されています。今後は、これらを結ぶ道道栗山北広島線沿道の商店街も含め、地区の人と情報が集まる中心地の形成が必要となっています。

##### ■ 緑化による緑豊かな地区の形成

札幌圏における大動脈である国道36号、道央自動車道の北広島インターチェンジや大規模な工業施設が立地する大曲工業団地があるため、うるおいの向上を求める声が多くなっています。このため、地区に立地する公共施設、商業施設や工業施設、戸建住宅や集合住宅、道路や公園、河川における積極的な緑化を進め、緑豊かな地区の形成が求められています。

### 3-2. 地区づくりの目標

#### (1) 地区の将来像

大曲地区は、木や花による地区内の積極的な緑化、コミュニティ施設や地域商業施設を利用した

人のつながりの強化などがテーマとなります。

そこで大曲地区の将来像を以下のようにします。

#### 地区の将来像

地区内のいたるところで緑の豊かさと活気が感じられ、さまざまな人がつながり、住む人みんながほっとできる地区

#### (2) 地区づくりの目標

##### ■ 緑の保全を図りながら、生活利便性の高い市街地を形成します

良好な市街地環境を形成するため、市街地周辺の緑を保全しつつ、だれもが安心して利用できる道路や公園などの都市基盤の整備や地域商業施設の充実を図り、高齢者にも住みやすい市街地の形成を図ります。

##### ■ 地区住民を中心として積極的な緑化を進めます

うるおいの感じられる地区を形成するため、地区住民・事業者・行政が協力しながら、住宅地、

商業地、工業地、また、道路、公園、河川など地区内のいたるところの積極的な緑化を進めます。

##### ■ 大曲会館とコミュニティセンターなどを結ぶ地区を交流の中心地として形成します

子どもから高齢者まで、さまざまな人が強くつながる地区を形成するため、行政機能の中心である大曲会館の周辺と交流機能の中心であるコミュニティセンターの連携を強化し、これらを結ぶ地域商業地と合わせて、地区の文化や住民間の交流を育てる場の創出を図ります。

### 3-3. 地区づくりの基本方針

#### (1) 土地利用の基本方針

##### ① 住宅地

- 戸建住宅と集合住宅、商業施設、飲食施設などが立地し、コミュニティセンターの建設も予定されている道道栗山北広島線、市道大曲通線沿道などの一般住宅地は、住環境、商業環境が相互に調和した生活利便性の高い住宅地の形成を図ります。
- 戸建住宅を中心とした専用住宅地は、住民が主体となった花づくりや庭づくりを通して緑あふれる住宅地の形成を図ります。

##### ② 商業・業務地

- 国道36号や道道栗山北広島線沿道の地域商業

地は、高齢社会に対応し、安全で快適な歩行者空間の確保など商業環境の整備を図りながら、文化施設などと合わせて人や情報が集まる地区のコミュニティの中心地の形成を図ります。

##### ③ 工業地・主要幹線道路沿道

- 大曲工業団地を活用し、本市の立地特性をアピールして製造業を中心とした企業の誘致を図るとともに、未操業企業の工場等の建設を促進します。また、古くから立地している既存工場等の敷地内の緑化を促進し、緑の豊かさが感じられる工業地の形成を図ります。
- 西地域（大曲・西部地区）の国道36号、羊ヶ

## 第4章 | 地区づくりの基本方針

丘通周辺においては、新たな産業・業務系団地配置の検討を進めます。

- 主要幹線道路である国道36号の沿道において、街路樹の緑化や看板の規制などにより本市のイメージアップを図りつつ商業・業務施設や軽工業・流通業務施設を誘致し、活気のある沿道環境の形成を図ります。また、羊ヶ丘通沿道の大曲幸地区（一部住居系の土地利用を含む）においては、沿道機能を活かした商業・業務施設などの立地を検討します。

### ④森林地域

- 大曲東小学校うらの森などの市街地に近い森林地は、所有者の理解を得ながら、守るべき緑地の指定などや、無秩序な乱開発の防止を図り、良好な自然環境を保全するとともに、自然観察や野生生物とのふれあいの場として活用を図ります。

### ⑤農業地域

- 畑地を主体とした農地の保全を図るとともに、市民などが土にふれ、作物を収穫する体験ができる市民農園や観光農園などの都市型農業の展開により、農業者との交流が生まれる環境の創出を図ります。

## (2) 都市交通体系の基本方針

### ①広域幹線道路

- 広域的な人や物の移動、近隣市町との連携を強化するため、国道36号、羊ヶ丘通の道路交通機能の強化を促進します。

### ②幹線道路・補助幹線道路・区画道路

- 北広島団地地区、東部地区との連携を強化するため幹線道路である道道栗山北広島線、また、西の里地区との連携を強化するため幹線道路である市道大曲東通線、市道大曲通線の道路機能の強化を図ります。
- 市道大曲工場4号線などの補助幹線道路は、老朽化した箇所適切な補修、改良など維持管理を行います。
- 区画道路は、市民生活に密着した道路として

順次整備を進めるとともに、適切な補修、改良など維持管理を行い、地区住民と行政が協力しながら、安全性や防犯性を高めるなど、歩行者、自転車、自動車が共存でき、歩いて楽しい道路空間の形成を図ります。

### ③歩行者・自転車道路

- 国道36号や道道栗山北広島線などを利用して地区間を結ぶサイクリング・ネットワークの形成を図ります。
- 既存道路を活用して地区内を循環する歩行者・自転車道路ネットワークの形成を図ります。

### ④公共交通

- 地区内の移動の利便性や交流の活発化を高めるため、協働により、地区内の主要施設をネットワークする交通のあり方について検討します。

### ⑤道路空間の環境整備

- 通学路や病院、商業施設の周辺など歩行者の多い道路、また、自動車の交通量の多い道路については、優先的な除排雪や融雪の強化、信号機や標識の設置、街路樹のポリウムアップと適正な管理などを行い、道路の安全性や快適性、道路空間の憩いとやすらぎを高めます。

## (3) 緑・水環境の基本方針

### ①レクリエーション空間

- 子どもが遊び、高齢者や障がい者が憩う空間を創出するため、利用者である地区住民の参加を得ながら、大曲公園、大曲東公園など身近な公園のあり方を検討します。
- 水と緑にふれられる空間を形成するため、市街地を流れる中の沢川などについては、市民の協力を得ながら木や花による植栽などにより、河川環境を保全しながらうるおいのある親水空間の創出を図ります。

### (4) 都市景観の基本方針

#### ① 市街地景観

- 住宅地は、地区住民が中心となって街並みづくりのルールを定めるとともに、木や花による緑化を進め、緑の豊かさが感じられる住宅地景観の創出を図ります。
- 国道36号や道道栗山北広島線沿道の地域商業地については、うるおいの感じられる街並みの形成を促進します。
- 大曲工業団地については、街路樹や緩衝林、芝生、花壇などによる緑化を進め、周辺の自然環境、住環境と調和した工業地景観の形成を促進します。

- 市街地内にあつて主要幹線道路である国道36号、羊ヶ丘通の沿道は、本市のイメージアップを図るため、木や花による緑化、建築物や屋外広告物の色彩などのルールを定め、うるおいのある都市的な街並みづくりを進めます。

#### ② 自然・田園景観

- 市街地の背景となり季節感を演出する市街地東側の樹林地の保全を図るため、開発の抑制に努めます。
- 都市にうるおいとやすらぎを与える、大曲地区の北側や南側などの畑地を中心とした農地の保全を図ります。

## 大曲地区方針図

